

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	34人	算数	34人	理科	34人
------	----	-----	----	-----	----	-----

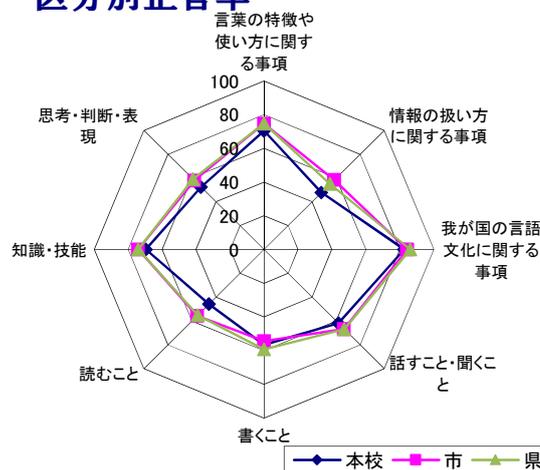
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.5	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	47.8	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.6	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	62.0	66.7	66.9
	書くこと	56.5	54.3	59.3
	読むこと	45.7	55.6	55.2
観点	知識・技能	69.6	74.1	74.0
	思考・判断・表現	52.5	58.0	59.1



## ★指導の工夫と改善

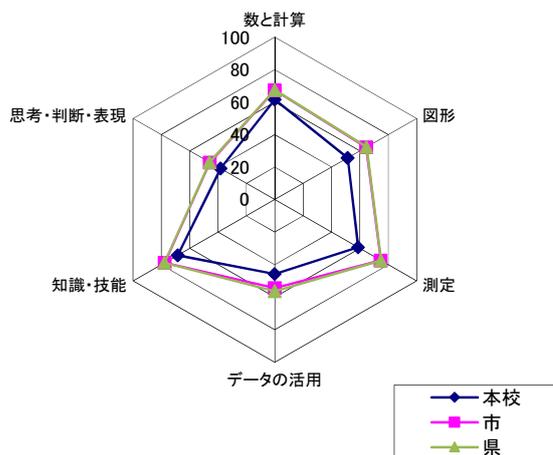
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は70.5%で、県の平均を4.3ポイント下回った。</li> <li>○絵を見て、台詞の空欄に適する指示する語を選ぶ問題では、県の平均を1.8ポイント上回った。</li> <li>●ローマ字を正しく読む問題では、県の平均を15.6ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ字の指導では、mya.myu.myoなどの拗音、「sippu」などの促音、bとdやmとnなどの間違いやすい綴り方の指導を繰り返す。また、ドリルやプリント等で書く練習を行い、定着を図る。</li> <li>●クロームブックでローマ字入力の練習を行い、ローマ字に触れる機会を多く持つ。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は47.8%で、県の平均を7.2ポイント下回った。</li> <li>●例文で用いられた「うるさく」の意味として適するものを選ぶ問題で、県の平均を7.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語辞典の表記の仕方、読み取り方に慣れるため、各教科の授業で国語辞典を使った意味調べの活動を、繰り返す。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は82.6%で、県の平均を3.5ポイント下回った。</li> <li>●「住」のへんとして適するものを選ぶ問題で、県の平均を3.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を部首ごとに分けたり、新出漢字の部首を調べたりして、授業の中で漢字のへんやつくりを理解する機会を多く設ける。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は62.0%で、県の平均を4.9ポイント下回った。</li> <li>●参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を記述する問題では、県の平均を3.5ポイント下回った。また、無回答率が34.8%であることから、書く内容が思い浮かばなかったり、問われていることが分からなかったりした児童が一定数いたと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を要約したり、言い換えたりする活動を体験するため、学級会や話し合い活動を授業の中で多く設ける。</li> <li>●自分の意見だけではなく、友達の意見を要約する機会を増やす。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は56.5%で、県の平均を2.8ポイント下回った。</li> <li>○自分の考えを明確にして文章を書く問題では、正答率が95.7%であり、県の平均を25.9%上回った。</li> <li>●2段落構成で文章を書く問題では、県の平均を18.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や生活等の振り返りを短作文に書かせるなど、継続的に作文指導を行う。その際、段落の役割を明確にさせ、始め、中、終わりのまとまりを意識しながら書くようにする。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は45.7%で、県の平均を9.5ポイント下回った。</li> <li>●段落の内容を捉え、前半と後半に分ける問題では、正答率が0%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読む際に、段落ごとに書かれている内容を要約したり、段落ごとの内容の違いを明確にしながらかみ取ったりする活動を、授業の中で繰り返す。</li> <li>●図書室へ行く時間を意図的に設けたり、朝の読書の時間を活用したりして、様々な文章に触れる機会を作る。</li> </ul>

# 宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.6	67.3	67.4
	図形	51.3	64.5	64.7
	測定	58.7	74.7	74.9
	データの活用	45.7	54.4	56.4
観点	知識・技能	68.5	77.6	77.8
	思考・判断・表現	38.3	45.8	46.1



## ★指導の工夫と改善

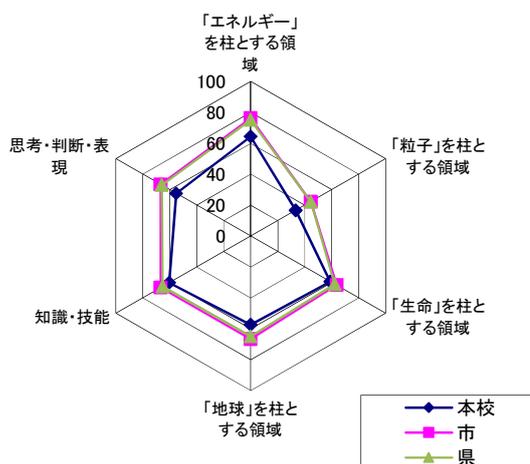
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は61.6%で県の平均を5.8ポイント下回っている。</li> <li>○示された考えをもとに少数の減法を整数の減法に直して処理する方法を説明する問題では、正答率が30.4%で県の平均を14.4ポイント上回った。</li> <li>●余りの考えを用いて理由を説明する問題では、正答率が47.8%で県の平均を15.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章から問題の場面を考えたり、どのように立式、解答すればいいのかを考えたりする学習を繰り返し行い解き方を定着させる。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は51.3%で県の平均を13.4ポイント下回っている。</li> <li>●円の中心とコンパスの使い方について、正しいものを選ぶ問題では正答率が39.1%で県の平均を20.9ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定規やコンパス、分度器の正しい使い方や図形の特徴が理解できるようにICTの活用や習熟度別学習、少人数学習の時間を利用した個別指導の充実を図る。</li> </ul>
測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は58.7%で県の平均を16.2ポイント下回っている。</li> <li>●時間が経過する前の時刻を求める問題では、正答率が60.9%で県の平均を19.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻を求める問題において、模型や数直線を用いて時間の動きを目で見分ける支援を行うとともに、時計の読み方・時刻の求め方が身に付くようにする。また、普段の生活から時計を意識して行動させることで時刻や時間を考える機会を作る。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は45.7%で県の平均を10.7ポイント下回っている。</li> <li>●棒グラフで2番目に多かったスポーツを答える問題では、正答率が78.3%で県の平均を10.9ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問と棒グラフを比較して正しく解答できるように、文章の読み取りやグラフの数字を読み取る練習を行う。また、算数以外の教科でも棒グラフを使った学習を行うことで、グラフの読み取りを学習する機会を設け定着を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立平石北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.4	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	33.3	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	58.9	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	57.4	66.6	64.9
観点	知識・技能	60.4	66.8	65.4
	思考・判断・表現	55.2	66.8	65.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県の平均を10.7ポイント下回っている。</li> <li>○鉄やアルミニウム、銅が金属であることを理解しているかどうかを問う内容については、正答率が65.2%で県の平均を3.6ポイント上回った。</li> <li>●車が動いた距離から送風機の風の強さを推測できるかどうかを問う内容については、正答率が43.5%で県の平均を23.0ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果や観察から原因や理由を推測し、表現する内容について正答率が低い傾向がある。普段の理科授業で考察をする時間には、ペアやグループで話し合わせたり、キーワードを示したりすることで、実験結果や観察から分かることを表現する力を高められるようにしていく。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県の平均を11.2ポイント下回っている。</li> <li>○姿勢を変えて測った体重が変化するのかを、実験の結果をもとに記述できるかどうかを問う内容については、正答率が13.0%で県の平均を3.1ポイント上回った。</li> <li>●ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を推測できるかどうかを問う内容については、正答率が56.5%で県の平均を21.3ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で得た知識を応用する問題について、正答率が低い傾向がある。授業においては、知識を習得することだけでなく、身の周りの自然現象の体験活動をじっくり行い、そこから得た疑問を調べて解決するという経験を積ませ、科学的に思考する力が高められるようにしていく。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県の平均を3.4ポイント下回っている。</li> <li>○アゲハが卵をうみつける場所を理解しているかどうかを問う内容については、正答率が65.2%で県の平均を4.3ポイント上回った。</li> <li>●草丈の測り方を身に付けているかどうかを問う内容については、正答率が21.7%で県の平均を18.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物の体のつくりや草丈の測り方など、基礎的な知識を問う内容について正答率が低い傾向がある。4年生の理科で、1年間の植物の成長について学習する際、3年生で学んだことを振り返りながら取り組むことで、知識の定着を図る。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県の平均を7.5ポイント下回っている。</li> <li>○観察の結果から、かげと太陽の位置の関係を読み取ることができるかどうかを問う内容については、正答率が95.7%で県の平均を5.4ポイント上回った。</li> <li>●実験の結果から、かげの動くようすを推測できるかどうかを問う内容については、正答率が30.4%で、県の正答率が22.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の技能を問う内容について正答率が低い傾向がある。実験を行う意味や方法、注意点について、各自が十分に確認できるように、予備実験や教材研究をしっかりと行う。</li> </ul>

## 宇都宮市立平石北小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく。)」の質問では、30分以上と答えた割合は52.1%であり、県を10.9ポイント上回っている。また、「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく。)」の質問では、11冊以上と答えた割合が52.2%であり、県を28.1ポイント上回っている。以上の結果から、読書活動の充実をねらう本校の学習指導の効果が表れていると言える。

○「次の教科などの学習は好きですか。」の質問では、本校の肯定的回答の割合が、全ての教科等において8割以上であり、県を上回っている。今後も、子供たちが興味・関心を高め、楽しく学べる授業を実践していく。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、本校の肯定的回答の割合は60.9%であり県と同程度であった。一方、「家で、学校の授業の予習をしている」の質問では、本校の肯定的回答の割合は34.8%であり県を21.2ポイント下回っている。復習だけでなく、授業の予習にも取り組むことができるように、家庭学習のやり方を指導していく。

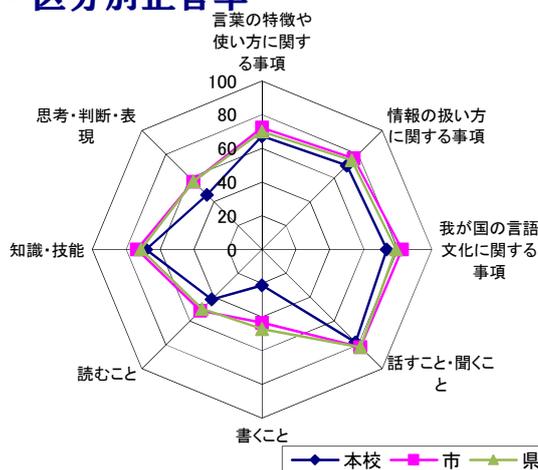
●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」の質問では、1時間以上と答えた割合は、本校では21.8%であり県を26.6ポイント下回っている。また、平日の場合、1時間以上と答えた割合は、本校では30.5%であり県を12.9ポイント下回っている。今後も、家庭学習の意義や取り組み方について児童に指導したり、懇談会や各種たより、ホームページ等で家庭に伝えたりしていく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームする時間はのぞく。)」の質問では、1時間以上と答えた割合は52.2%であり県を29.3ポイント上回っている。また、ゲームをする時間については、1時間以上と答えた割合は82.6%であり県を17.2ポイント上回っている。さらに、テレビやDVD、動画を見る時間については、1時間以上と答えた割合は91.3%であり県を11.8ポイント上回っている。動画の視聴やゲームをする時間のルール作りや、メディアとの付き合い方について学級活動等で指導していく。また、家庭への啓蒙と協力をお願いをするなど、家庭との連携を図る。

# 宇都宮市立平石北小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	67.3	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	70.6	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	73.5	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	77.9	81.9	82.0
	書くこと	21.3	43.5	47.2
	読むこと	41.9	51.4	49.8
観点	知識・技能	68.2	73.6	71.3
	思考・判断・表現	45.8	57.1	57.2



## ★指導の工夫と改善

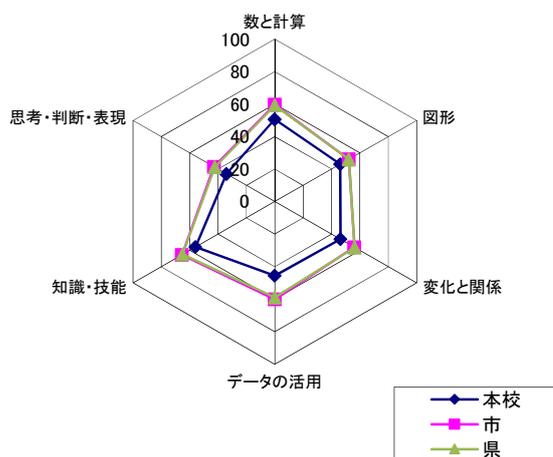
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は67.3%で県平均を2.7ポイント下回った。</li> <li>○漢字を正しく読む問題では(「材料」「席」), 県平均を上回り、「祝う」では県平均と同等の正答率だった。</li> <li>●漢字を書く問題では「旗」の正答率が29.4ポイントと、県平均を25.8ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既習の漢字の読み・書きを繰り返し反復練習することで定着を図る。</li> <li>●文章の音読を通して漢字を声に出して覚える機会を設ける。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ問題では、正答率が70.6%で74.9%で県平均を4.3ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字辞典や国語辞典など、辞典を使う機会を設け、正しい使い方を確認する。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文を読み、適することわざを選ぶ問題(急がば回れ)では、正答率が73.5%で県平均を5.4ポイントを下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ことわざや四字熟語にふれる機会を設け、意味調べや文章作りなどを通して知識の定着を図る。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は77.9%で県平均を4.1ポイント下回った。</li> <li>○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題では、正答率が91.2%で県平均を2.5ポイント上回った。</li> <li>●話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ問題では、正答率が67.7%で県平均を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業で話し合い活動を行う際には、自分の考えや根拠を明らかにして話したり、筋道を立てて発表したりできるように指導していく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は21.3%で県平均を25.9ポイント下回った。</li> <li>●「エコ活動」についてのアンケート結果から読み取ったことを、1つ目の段落に書く問題では正答率が20.6%で県平均を32ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10分間作文や行事の振り返りの作文指導で文章を書いたり、構成を考えたりすることに慣れるようにする。</li> <li>●授業においても自分の意見や理由を端的に記入させるように指導していく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は41.9%で県平均を7.9ポイント下回った。</li> <li>●文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、空欄に適するものを選ぶ問題では、正答率が38.2%で県平均を13.6ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物語等の読み取りや内容理解の指導において、登場人物の心情の読み取りや場面の様子などの理解を深められるよう指導していく。</li> <li>●読書活動を奨励するなど読書を奨励する。</li> </ul>

# 宇都宮市立平石北小学校第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.6	59.7	59.2
	図形	46.1	52.1	52.1
	変化と関係	46.3	56.1	56.3
	データの活用	45.6	60.1	58.9
観点	知識・技能	55.9	65.5	65.1
	思考・判断・表現	34.1	42.9	42.4



## ★指導の工夫と改善

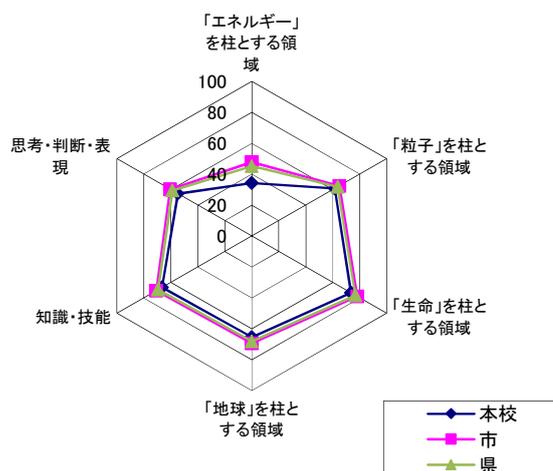
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は50.6%で、県の平均を8.6ポイント下回っている。</li> <li>○四則や()の混じった式の計算順序を答える問題では正答率が50.0%で、県の平均を0.5%上回った。</li> <li>●概数について理解し、目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ問題では正答率が8.8%で、県の平均を19.0ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概数を使う目的について理解し、その目的に応じて使い分けができるようにする。この問題では、切り上げが正確にできていなかったとみられるので、四捨五入、切り上げ、切り捨ての違いについて指導していく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は46.1%で、県の平均を6.0ポイント下回っている。</li> <li>○身近なものの面積面積の単位の関係を説明した文の空欄にあてはまる数を答える問題では正答率が38.2%で、県の平均を3.6%上回った。</li> <li>●複雑な図形の面積の求め方として正しいものを選ぶ問題では正答率が44.1%で県の平均を15.9%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな見方から図形の面積を求める方法を考えさせるとともに、AI型学習ドリルや計算ドリルなどを活用しいろいろな面積の求め方を理解できるように指導する。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は46.3%で、県の平均を10.0ポイント下回っている。</li> <li>●伴って変わる2つの数量の関係について、表をたてにみて分かることを説明する問題では正答率が14.7%で、県の平均を10.3%下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める問題に課題がみられる。AI型学習ドリルや計算ドリルなどを活用し、□を使った式を立ててから数字を当てはめ、値を求める解法の定着を図る。また、他教科や学校生活の様々な場面で、「倍」を使った表現を使えるような活動を取り入れていく。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は45.6%で県の平均を13.3ポイント下回っている。</li> <li>●条件にあてはまる表の部分を選ぶ問題では正答率が61.8%で、県の平均を18.2%下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科や学校生活の委員会などの場面で、表やグラフを読んだり、表に表したりする活動を取り入れ、表やグラフを正しく読み取る力を育む。また、読み取ったことから考えられることを文章でまとめる学習も取り入れ、資料を分析する力を身に付ける。</li> </ul>

# 宇都宮市立平石北小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	34.3	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	61.5	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	73.5	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	65.4	69.5	68.1
観点	知識・技能	66.5	70.8	69.5
	思考・判断・表現	54.8	60.5	58.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、県の平均を11.0ポイント下回っている。</li> <li>●乾電池のつなぎ方の名称を問う内容では、正答率が44.1ポイントで県の平均を13.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気の流れについて調べる学習では、実験の結果を図を用いたり、言葉を使って説明させたりする活動を多く取り入れる。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は61.5%で県の平均を2.1ポイント下回った。</li> <li>○水と空気をあたためたときの体積の変化について問う内容については、県の平均を13.1ポイント上回った。</li> <li>●温度による金属の体積の変化について記述で答える問題では、県の平均を12.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の周りの生活経験の中で、科学的な視点から観察や考察をする機会を意図的に設定する。</li> <li>・AI型学習ドリル等ICTを活用して繰り返し復習することで、学習内容の定着を図る。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は73.5%で県の平均を3.3ポイント下回った。</li> <li>○腕を曲げたときの筋肉のようす、関節の名称を答える問題は、それぞれ県の平均を上回った。</li> <li>●季節の変化とカエルのようなすを関係づける問いについては正答率73.5%で県の平均を9.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察の難しい動植物の生態については、ICTや図書資料を活用し、興味や関心を持って学習できるようにする。</li> <li>・学習したことを基にグループで考えを述べ合い、考えを広めたり深めたりするなどの活動を行うことで理解を深める。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は65.4%で県の平均を2.7ポイント下回った。</li> <li>○方位磁針の使い方を答える問題については、県の平均を9.0ポイント上回った。</li> <li>●天気の流れ方を答える問題については、県の平均を16.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的内容の理解が不十分である単元については朝の学習やフォローアップシートを活用して定着を図る。</li> <li>・単元のまとめの時間には、応用的な内容を取り入れたり、自分たちの生活とのかかわりの中で考えたりし、知識の活用力や表現力を高められるようにする。</li> </ul>

## 宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は学習のことについてほめてくれる」という質問に対して本校の肯定的回答の割合は64.7%で県を12.4ポイント上回っている。また、「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」という質問に対して本校の肯定的回答の割合は61.8%で県を19.8ポイント上回っている。このことから、担任が児童と関わっていくなかで、すべての児童を認め、褒めてよいところを伸ばそうとしたかかわり方をしており、それを児童も好意的に受け取り、担任を頼っていることが分かる。それはクラスの良い雰囲気作りにつながり、担任に気軽に質問ができる環境になっている。

○「授業のなかで、目標(めあて・ねらい)がしめされている」という質問に対して本校の肯定的回答の児童の割合は76.5%で、県を8.1ポイント上回っている。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」という質問に対しての肯定的な回答は県を5.7ポイント上回っている。このことから授業の流れとして、最初にしっかりとその授業のめあてが児童に提示されており、最後にはふり返りの時間が確保されていることが分かる。児童もこの一連の流れを理解しており、1時間の授業の流れをつかむことができていることが分かるので継続して続けていきたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問に対して本校の肯定的回答の割合は73.5%で県を14.9ポイント上回っている。このことから自分自身を認め、自分のよさを自覚していることが分かる。これは自己肯定感を高めることにもつながり、物事への意欲や、将来への希望につながるため、この結果を生かし、ひとのために行動できる児童の育成に引き続き努めたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」という質問に対して本校の肯定的回答の割合は61.8%で、県を30.6ポイントと大きく上回っている。児童は問いに対して単語で答えを述べることはできても、自分の言葉で文章を書くことに苦手意識をもっていることが分かる。文章を組み立てることに慣れていくためにも、作文指導や日記を書く機会を積極的に取り入れたり、授業中も自分の意見を組み立てて「自分はそのときどう思ったか」「どうしてそう思ったのか」を話す場面を作っていくたい。

●「問題を解く時間は十分でしたか」という質問に対して、国語・算数・理科すべての教科で県と比べて否定的な回答が肯定的回答を上回っている。つまりすべての教科で時間が足りないと感じた児童が多かったことが分かる。児童は多くの問題数があるテストに慣れておらず、テストの時間配分がうまくつかめていない傾向にある。前述した読む力の育成に取り組むとともに、ペース配分を考えてテストに取り組むことができるよう指導が必要である。

## 宇都宮市立平石北小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力の育成」 ～とともに学び、分かる魅力ある授業の追究を通して～	・宇都宮モデルの指導の質的向上 ・情報活用能力の育成 ・読解力(語彙力)の育成、読書活動の充実 ・個に応じた指導の充実	国語における「読むこと」の平均正答率が県や市の平均を下回っている。また、どの教科も問題を解くことに時間がかかるという結果となった。理由として、問題を理解できない、資料や表から課題解決に向けた必要な情報を容易に得られない、自分の思いや考えをまとめ解答することがむずかしいということが考えられる。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
宇都宮モデルを意識した授業を行ってきたが、読解力(語彙力)の育成、情報活用能力の育成、自分の考えをまとめ整理する力などに課題が見られた。	個別最適な学びによる各教科の基礎・基本の確実な習得と発展的な・補充的学習の工夫	十分に定着していない内容を見直し、AIドリル等を計画的に活用し、基礎・基本の習得を図る。また、学習したことをその後の学習や生活に生かせる場の設定を行う。特に、情報活用能力、読解力(語彙力)の育成という視点で学習や活動を組んでいく。